2023年度環境経営レポート

(対象期間:2023年4月~2024年3月)

発行日:2024/7/10 改定日:2025/1/22

株式会社尾張クリーンパイプ

目次

1 組織の概要

2	実施体制	P.6		
3	環境経営方針	P.7		
4	環境経営目標	P.8		
5	環境経営計画	P.9		
6	環境経営目標の実績	<u> </u>	P.10	
7 P.1	環境経営の取り組み 11-12	結果とその	の評価及び次年	度の取り組み
8 等(環境関連法規等の遵 の有無 P.1		寉認及び評価結	果並びに違反訴訟
9	代表者による全体の)評価と見[直し・指示	P.14

P.1-5

1 組織の概要

① 社名及び代表者

株式会社 尾張クリーンパイプ 代表取締役 坂本 泰之

②所在地

本社事業所 〒485-0016

愛知県小牧市間々原新田1053番地

リサイクルプラント (中間処理施設) 〒485-0826

愛知県小牧市東田中石子1538番地

大口 (作業車輌基地)

愛知県丹羽郡大口町秋田四丁目番

名古屋支店

愛知県名古屋市東区泉二丁目21-3 司ビル305

三重支店

三重県松阪市郷津町210番地2

③ 環境管理責任者氏名及び担当者

環境管理室

 環境管理責任者
 総務部長
 平手
 直喜

 EA21担当者
 総務経理部
 鈴木
 英行

E-mail <u>soumu-keiri@owaricp.jp</u>

TEL 0568-73-9933 FAX 0568-75-7770

④ 事業内容

産業廃棄物処理部門

一般・産業廃棄物収集運搬 産業廃棄物 (汚泥) 中間処理 汚泥・泥土リサイクル再生資源販売

工事部門

各種水槽・沈殿ピット等清掃工事 下水管・排水管等洗浄工事 側溝・排水路浚渫工事 グリストラップ清掃 配水管布設工事 管内TVカメラ調査・補修工事

⑤ 認証登録範囲

対象組織:本社・リサイクルプラント・大口(車両基地)・名古屋支店・三重支店 対象活動:事業内容と同じ

⑥ 事業規模

資本金2,000万円従業員数27名会社設立昭和52年6月29日売上高741百万円(令和6年3月31日)

本社 (18名)

延床面積 1003.33㎡ 敷地面積 195.40㎡

※本社はグループ会社所有で共同利用です。

リサイクルプラント (7名)

事務所床面積81.15㎡工場床面積241㎡焼却施設床面積94.05㎡敷地面積210.42㎡

大口 (常駐者無)

敷地面積 2475㎡

名古屋支店 (1名)

敷地面積 13㎡

三重支店 (1名)

敷地面積 329.79㎡

⑦ 事業年度

4月~3月

⑧ 許可及び登録一覧

管轄	業の種類	許可年月日	有効年月日	許可番号
	産業廃棄物処分業	平成28年10月31日	令和12年10月30日	第02320004913号
	中間処分(焼却、造粒固化、天日	1乾燥、分級)		
	産業廃棄物収集運搬業	平成27年1月30日	令和11年1月29日	第02310004913号
愛知県	積替え、保管除く 燃え殻(水銀含有ばいじん等を除っり(水銀含有ばいじん等を除っ 業廃棄物を含む。)、紙くず、大 除く。)及び陶磁器くず、(自動 (石綿含有産業廃棄物を含む。) 以上 13品目(水銀使用製品産業 積替え、保管含む 汚泥(水銀使用製品産業廃棄物を 以上 1品目(水銀使用製品産業 保管上限22.44㎡ 高さ該当なし	(。) 、廃プラスチッ (、。) 、廃プラスチッ (、ず、繊維くず、動: (リートくず(工作物の: (力車等破砕物を除く。) (が銀含 業廃棄物を除く。)	ク類(自動車等破砕物 植物性残さ、金属くす 新築、改築又は除去に 石綿含有産業廃棄物を	かを除く。石綿含有産 *(自動車等破砕物を に伴って生じたものを を含む。)、がれき類

	産業廃棄物収集運搬業	令和1年9月10日	令和8年8月20日	第02100004913号					
	汚泥、廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く。)、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず								
	(自動車等破砕物を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に								
岐阜県	伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。)、がれき類								
	上記8品目は石綿含有産業廃棄物であるものを除く。								
	廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ								
	以上 12種類								
	上記品目は、水銀使用製品産業原	廃棄物及び水銀含有ば	いじん等を除く。						
	産業廃棄物収集運搬業	平成30年9月11日	令和7年8月7日	第02400004913号					
	積替え、保管を除く								
	汚泥(水銀含有ばいじん等を除ぐ	〈。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を	を除く。)、廃アルカ					
	リ(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃プラスチック	類(石綿含有産業廃勇	棄物を除く。) 、紙く					
三重県	ず、木くず、繊維くず、動物性残さ、金属くず、ガラスくず等(石綿含有産業廃棄物を除								
	く。)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く。)								
	(上記品目は、水銀使用製品産業廃棄物を除く。)以上 12種類								
	※ガラスくず類とは、「ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って								
	生じたものを除く。及び陶磁器・	くず」をいう。							
	産業廃棄物収集運搬業	平成29年12月5日	令和6年11月5日	第02501004913号					
滋賀県	積替えを含まない								
	汚泥、廃油								
	以上2項目								
	産業廃棄物収集運搬業	平成30年5月23日	令和7年5月22日	2009004913					
長野県	積替保管を除く								
又五八	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ								
	以上いずれも特別管理産業廃棄物	勿を除く。							
小牧市	一般廃棄物処理業	令和2年4月1日	令和8年3月31日	第搬38号					
岩倉市	一般廃棄物処理業	令和2年4月1日	令和8年3月31日	第32号					
	一般建設業	令和1年11月18日	令和6年11月17日	(般-31)第40671号					
	管工事業	T		[(t) - 1)					
愛知県	特定建設業	令和1年11月18日	令和6年11月17日	(特-31)第40671号					
	土木一式工事業、とび・土工	・コンクリート工事業	、舗装工事業、しゅん	んせつ工事業、					
	水道施設工事業								

⑧ 処理施設、産業廃棄物の種類及び処理能力

区分	中間処理施設		
種類	汚泥		
所在地	愛知県小牧市東田中石	5子1538番地	
処理能力	焼却施設	流動床式焼却・バグフィルター	3.336t/日
	分級施設	振動スクリーン分級・泥状分と 固形分に分級	240 m³/⊟
	天日乾燥 (無機性汚泥に限 る)	沈殿分離・水切・天日乾燥・凝集沈殿	96.32 ㎡/日
	造粒固化施設 (無機性汚泥に限 る)	汚泥の混錬・造粒	120t/日
積替え、保管施設		汚泥	上限量 22.44㎡ 保管面積 7.06㎡

⑨ 運搬・営業車両の種類と台数

10tMP	10tSBC	4tM	7tフックロール	3tダンプ	1tトラック	4t給水車
3台	1台	4台	1台	1台	1台	1台

小型 J	4t J	軽貨物	4tパッカー	軽自動車	普通車	TVカメラ車
1台	2台	3台	4台	2台	6台	1台

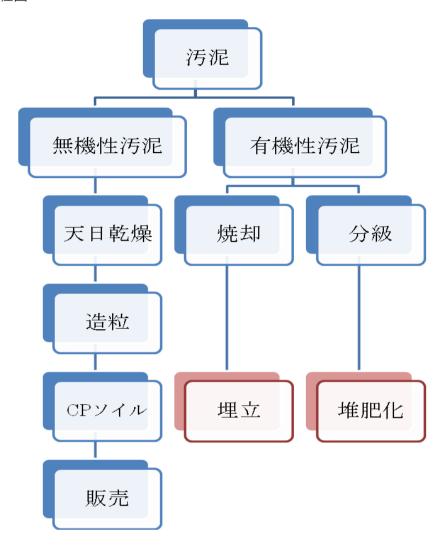
※MP、SBC及びMは、強力吸引作業車両

」は、高圧洗浄車両

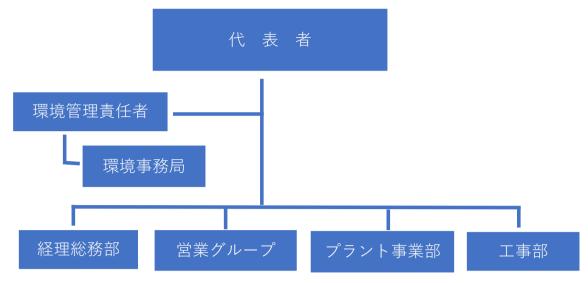
⑩ 産業廃棄物取扱実績及び建設業請負高

	種類	2023年度実績	
産	収集運搬量		4,859t
業		焼却	957t
系 廃 棄 物	中間処理量	分級	3,784t
		天日	1,454t
		造粒	26t
		計	6,221t
一般廃棄物収集運搬量			605.96t
	建設業請負高	130百万	

⑪ 処理工程図



2 実施体制 6



E A-21は全組織・全活動で取り組んでいます。

	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営方針を定め、環境管理責任者に任命する
	・環境経営目標、環境活動計画の承認
	・計画の実施、運用に必要な資源の準備をする
	・全体の取り組み状況を評価し、見直しを行う
	・環境経営レポートの承認・発行を行う
環境管理責任者	・環境経営システムを構築、運用、維持し必要な活動を推進する
	・代表者に取組状況の報告を行う
	・環境経営レポートの内容チェックを行う
	・経営企画会議に報告を行う
環境事務局	・環境への負荷の自己チェック、取組状況の自己チェック
	・環境経営目標、環境経営計画の作成
	・環境経営レポートの素案作成
	・安全衛生会議にて全社員に周知徹底する
責任者 (各部門長)	・自部門の取り組みに関し、結果を環境責任者に報告する
全従業員	・安全衛生会議にて報告・決定事項をうけ、環境に対する重要性を自覚し
土災未只	又積極的に取り組む行動する。

基本理念

当社は、愛知県の北西部に位置し、東名・名神・中央道等と高速道路の 結節点と言う立地条件に恵まれた内陸工業都市に所在します。又、名古屋 市の北部に位置している為、近郊農業も発達しています。都市の発展と自 然環境の保全と言う相反する課題の中、当社取り扱いの産業廃棄物(汚 泥)を中心に環境問題の重要性を認識し、環境に係る社会貢献を目指した 企業活動の推進に努め、持続的に発展できる循環型社会の実現に継続的か つ積極的に推進します。

基本方針

- 1 事業活動にあたって、法規制・条例及びその他要求事項を遵守します。
- 2 電気・化石燃料及び資源を効率化し、二酸化炭素の排出量を削減します。
- 3 節水に努め水道使用量の削減に努めます。
- 4 産業廃棄物の再利用及び減量を推進します。
- 5 受託産業廃棄物の減量率を高めます。
- 6 グリーン購入を推進します。
- 7 環境に配慮した工事を行います。
- 8 環境への意識向上の徹底を図る為に、社員への教育・啓蒙活動を推進します。

制定 2012年10月26日 改訂 2021年 3月 9日 株式会社尾張クリーンパイプ 代表取締役

坂本 泰之

4 環境経営目標 8

		基準	当期目標	中期	目標
		2021 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
A重油の二酸化炭素	基準比	-	1%削減	2%削減	3%削減
排出量削減	kg-CO2	325,200	321,948	318,696	315,444
電力の二酸化炭素排	基準比	-	1%削減	2%削減	3%削減
出量削減	kg-CO2	73,393	72,659	71,925	71,191
		基準	当期目標	中期	目標
			2023 年度	2024 年度	2025 年度
自動車燃料の二酸化	基準比	-	1%削減	2%削減	3%削減
炭素排出量削減	kg-CO2	206,462	204,397	202,333	200,268
C02排出量の削減	基準比		1%削減	2%削減	3%削減
合計 (総量)	kg-CO2	606,127	600,066	594,004	587,943
受託した産業廃棄物	基準比		1%增加	2%増加	3%増加
の減量率の向上	%	44.2	44.6	45.1	45.5
節水	基準比	-	1%削減	2%削減	3%削減
	m3	359	355	352	348
		基準	当期目標	中期	目標
		2021 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
が夜春梅の判试	基準比	-	1%削減	2%削減	3%削減
一般廃棄物の削減	kg	658	651	645	638
建設系産業廃棄物(アスコンがら)のリサイ	目標率	-	100%	100%	100%
クル率	%	該当工事なし	100%	100%	100%
グリーン購入	基準比	-	1%増加	3%増加	5%増加
フリーン 照八	% (金額)	71	72	73	75
環境配慮工事の推進	地域住民からの 苦情等の件数	0	0	0	0

- ※ 目標値を見直し、2021年度を基準としています。
- ※ 二酸化炭素排出係数:0.452kg-CO2/kwh(中部電力㈱2018年度の調整後排出係数)
- ※ 使用の少ない灯油、LPGは目標設定していません。
- ※ 「受託した産業廃棄物の減量率」
 - = (中間処理量 中間処理後の産業廃棄物量) / 中間処理量

5 環境経営計画 9

環境目標	内容	担当部門
電力の使用量削減	使用時以外の場所は消灯の徹底	
	残業時、昼休み時、退社時の節電の徹底	経理総務部
	空調の適温設定(夏28°C 冬20°C)	プラント事業
	リサイクルプラント待機時間を減らす	部
軽油・ガソリンの使用量削減	エコドライブの徹底	
	アイドリングストップの徹底	工事部
	車輛毎の燃料使用記録簿の記帳	営業グループ
	営業経路の見直し	
A重油の消費量削減	焼却炉温度を管理し消費量を削減	プラント事業部
廃棄物の削減	分別の徹底	経理総務部
	紙使用量の削減	形上主形67万 dP
受託産業廃棄物の減量率の向上	減量できる設備の策定	
	・同業者の施設見学	プラント事業部
	・脱水設備業者との意見交換	
建設系産業廃棄物のリサイクル率	アスコンがらリサイクル率100%	工事部
水道使用量の削減	水道の漏水を定期的に確認	工事部
	節水意識の向上	ᅩᆍᇚ
グリーン購入の推進	購入時エコ商品の確認	経理総務部
環境配慮工事の推進	使用機材の低騒音化の推進	工事部
	業務時間管理の徹底	<u> </u>

年度	2023年度			
項目	目標	基準年比 実績	評価	
1.電力の二酸化炭素排出量削減	基準年比	1%削減	24%減少	0
	kg-CO2	72,659	55,431	Ū
2.自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	基準年比	1%削減	3%増加	\triangle
	kg-CO2	204,397	212,606	
3.A重油の二酸化炭素排出量削減	基準年比	1%削減	15%減少	0
	kg-CO2	321,948	276,420	0
4.CO2排出量の削減合計(総量)	基準年比	1%削減	10%減少	0
	kg-CO2	600,066	546,273	0
5.一般廃棄物の削減	基準年比	1%削減	3%削減	0
	kg	651	638	0
6.受託した産業廃棄物の減量率の向上	基準年比	1%増加	26%増加	0
	%	44.6	55.7	0
7.建設系産業廃棄物(アスコンがら)のリ	目標率	100%	100%	0
サイクル率	%	100%	100%	0
8.節水	基準年比	1%削減	12%減少	0
	m3	355	317	0
9.グリーン購入	基準年比	1%増加	50%減少	×
	%(金額)	72	35.5	^
10.環境配慮工事の推進	地域住民からの 苦情等の件数	0	0	0

※評価基準 ◎:目標は達成し、うまく推進されている

〇:目標は達成してが、改善の余地がある

△:目標未達成で、改善の余地がある

×:目標未達成で、目標値の変更の必要がある

※PRTR法に該当する化学物質は、不使用です。

1) 電力の使用量削減

(取組結果・評価)

- ・使用時以外の消灯は、取り組めました。
- ・空調については、不在時には消すほか、こまめに温度調整ができました。 (次年度の取組内容)
- ・現状、誘引ファンと流動ブロアーを汚泥の焼却時以外でも流動砂の固化を防ぐ為、 稼働させています。そうした焼却以外の待機時間を減らし、設備の稼働を効率化さ せ、節電に取り組みます。
- ・節電を継続して取り組みます。

2) 自動車燃料の二酸化炭素排出量削減

(取組結果・評価)

・取り組んできましたが、達成できませんでした。

(次年度の取組内容)

- ・待機時などのアイドリングは必要最小限にとどめさせるとともに、
- エコ運転の意識の向上させるように取り組みます。
- ・継続して営業経路の効率化を行います。
- ・吸引車の使用中にアイドリングをしているので、ホースを適切な長さのものを使用する、作業員のスキルアップの為、定期的な指導を行う、など作業の効率化に取り組みます。

3) A重油の二酸化炭素排出量削減

(取組結果・評価)

- ・前年実績を基準にしたところ、目標が達成できました。
- ・焼却設備の設備更新に取り組みました。

(次年度の取組内容)

- ・焼却炉の昇温時に重油だけではなくカロリーのある焼却物を投入し、重油の消費を 抑え、同時に昇温を行っていきます。
- ・焼却設備の待機時間を減らし、A重油の消費量削減に取り組みます。

4) CO2排出量の削減合計(総量)

(取組結果・評価)

・前年実績を基準にしたところ、目標が達成できました。

(次年度の取組内容)

・上記取り組み内容を作業員に意識付けをし、継続して達成できるよう取り組みます。

5) 一般廃棄物の削減

(取組結果・評価)

・不要な印刷物を削減し、目標が達成できました。

(次年度の取組内容)

- ・分別の徹底・不要な印刷物の削減を継続していきます。
- ・PDFによる共有や電子保存により、印刷物を削減していきます。
- 6) 受託産業廃棄物の減量率の向上

(取組結果・評価)

・目標を達成しました。

(次年度の取組内容)

・減量率に拘わらず、持ち込み業者に対し分別の協力依頼をするなど リサイクル率の向上なども視野に入れて取り組みます。

7) 建設系産業廃棄物のリサイクル率の向上

(取組結果・評価)

・目標を達成しました。

(次年度の取組内容)

・引き続きアスコンガラのリサイクル率100%に努めます。

8) 水道使用量の削減

(取組結果・評価)

・目標を達成しました。

(次年度の取組内容)

・無駄な水道水を使わないよう取り組みます。

9) グリーン購入の推進

(取組結果・評価)

・購入割合を増やすことはできませんでした。

(次年度の取組内容)

・購入時に確認し、購入割合を増やすよう取り組みます。

10) 環境配慮工事の推進

(取組結果・評価)

・作業近隣より騒音等の苦情は、工事予定を事前にPRしたことによりありませんでした。

(次年度の取組内容)

- ・継続して取り組みます。
- ・名古屋・三重支店の環境活動は本社に倣って取り組みます。

関連法令一覧

- ・廃掃法
- · 大気汚染防止法
- ·水質汚濁防止法
- ・騒音規制法
- ・振動規制法
- ・ダイオキシン類対策特別措置法
- · 化学物質排出把握管理促進法
- ・フロン排出抑制法
- ・消防法
- ・グリーン購入法
- ・建設リサイクル法
- ・県民の生活環境保全等に関する条例(愛知県・三重県条例)
- ・廃棄物の適正処理の促進に関する法律

別途作成した環境関連法規等の取りまとめ表(遵守評価記録)に従い上記法について 評価した結果全て違反事項はありませんでした。

なお過去3年間ともに環境に関する苦情、関係当局からの指摘、訴訟等はありませんでした。

評価日: 2024/7/25

評価者: 平手直喜

今年度は、自動車燃料の二酸化炭素排出量の減少率が目標未達でした。各項目で目標値と乖離がある場合には、随時目標値の策定をして下さい。 また、引き続き車両毎の走行距離及び使用燃料の把握に取り組むととも に、社員の意識向上のため定期的な話し合いの場を設けてください。

循環型社会形成に向けて、各部門それぞれがいかに効率よく・無駄なく作業をする事を引き続き取り組んでください。

営業についてはデジタル技術(ソフトウェア)を導入し、ペーパーレス化 を図るとともに、効率化を図ってください。

全社員に対し、環境方針の周知及び意識向上の徹底を行なって下さい。

評価日:2024/8/22 株式会社尾張クリーンパイプ 代表取締役 坂本泰之